

台湾で上演された中国民族古典舞踊の文舞作品のイメージに関する研究

筑波大学大学院博士課程 張 瓊方
筑波大学 頭川 昭子

1. 序文

台湾では、毎年中華民族舞踊コンクール大会を開催している。実施要綱によると、古典舞踊は「中華民族の歴代古典型式、及び伝統文化の内容を表現する舞踊である」としているため、中国的な題材から得られた表現内容、中国古典的な衣装、京劇の特殊な動作や仕草を用いて作品を創作している。『礼記楽記篇』古典文献によると、手具を基に舞踊を種別して、「文舞」は、羽籥（羽と笛）などの道具を手にして踊る舞踊であった。しかし、現代における台湾の一般的な舞踊分類で、「文舞」は、「武舞」と相対的に、静かで、優しく、女性的な舞踊であるとしている。

本研究は、台湾で上演された中国民族古典舞踊の文舞作品の客観的なイメージの特徴を推察することを目的とする。

中国民族舞踊の文舞作品のイメージを研究するために、台湾を代表する台北民族舞踊団、中国民族舞踊コンクール、大学舞踊専攻生、台湾の小学生、中学校の専門舞踊クラスの児童・生徒などによる作品を対象とした。作品のイメージは、舞踊のイメージ探究のための意味空間構成モデル（頭川1995）による情意的な8意味次元：「明快性」「審美性」「力動性」「弾力性」「調和性」「重量性」「難易性」「空間性」を用いて統計的に分析した。張・頭川（2002）は中国女性古典舞踊作品の研究で、このモデルを用いて、舞踊団により上演された4作品を分析し、「明快性明快感」「審美性美的感」「力動性活動感」「弾力性柔軟感」「調和性協和感」「重量性軽量感」「難易性難行感」「空間性広大感」の方向にイメージされたと結論付けた。

2. 研究方法

1) 資料の収集

本研究では、2004年4月～5月に、古典舞踊作品のイメージ調査を2回に分けて行い、刺激材料としてVTRに記録された作品をランダムに配置し、社会人大学生（台湾S大学60名、62名）を被験者として、意味差判別法を用いて調査を行った。その中の6文舞作品を抽出し、作品のイメージを検討する。調査1は、「江河水（長袖）」（大学舞踊学部、大学生）、「仕女図（長袖）」（舞踊団、成人）、「緑映采荷（傘、扇子）」（舞踊クラス、小学生）の3作品であり、調査2は、「彩幻絲旅（リボン、楽器）」（舞踊クラス、小学生）、「敦煌伝説—妙音反彈（リボン、楽器）」（舞踊団、成人）、「蓮花世

界（リボン、楽器、手持ち花）」（コンクール、中学生）の3作品である。

2) 資料の処理

得られた資料をもとに、8情意的意味次元とその構成尺度を用いて、意味次元スコアを出した。次元毎に作品のイメージの方向とスコアの差異から、作品のイメージの特徴を考察した。各意味次元スコア間のt検定を用いて有意差判定し、イメージの差異を考察した。

3. 結果とその考察

1) 中国文舞6作品は、「明快性」「力動性」「難易性」次元を除いて、「審美性美的感」「弾力性柔軟感」「調和性協和感」「重量性軽量感」「難易性難行感」「空間性広大感」の5次元において同じ方向にイメージされた。

2) 全6作品における全一対比較に対する有意差数を考察すると、「明快性次元」「審美性次元」「力動性次元」では、80パーセント以上の有意差が見られ、作品の独自性が見られたといえる。しかし、「審美性次元」においてのみ美的な方向で一致していた。

3) 全6作品における全一対比較に対する有意差数を考察すると、「弾力性」「調和性」「重量性」「難易性」「空間性」の5次元では、40パーセント以下の有意差であり、類似性が高いと言える。

4) 小・中学生が踊った作品「緑映采荷」「彩幻絲旅」「蓮花世界」は、大人による作品に比べて「難易性易行感」の方向にイメージされたが、有意差はほとんど見られなかった。すなわち、ダンサーの年齢による違いは少ないと言える。

5) 有意差が一番多い作品「江河水」は、全6作品の中で唯一「明快性暗然感」と「力動性沈静感」の方向にイメージされ、作品内容の違いが見られたと言える。

6) 敦煌舞踊の3作品は、「難易性次元」を除く、7次元では同じ方向にイメージされ、「弾力性」「重量性」「難易性」「空間性」の4次元では有意差がなく、他の作品より類似性が高いと言える。

4. 結論

本研究における中国古典文舞6作品のイメージは、「美的感」「柔軟感」「協和感」「軽量感」「広大感」の同じ方向にイメージされ、全一対比較に対する有意差数を考察すると、「明快性」「審美性」「力動性」の3次元では、作品間の有意差が多く、作品の独自性が見られたと言えるが、「弾力性」「調和性」「重量性」「難易性」「空間性」の5次元では、作品間の有意差は少なく、古典舞踊の文舞作品の類似性ではないかと考えられる。